

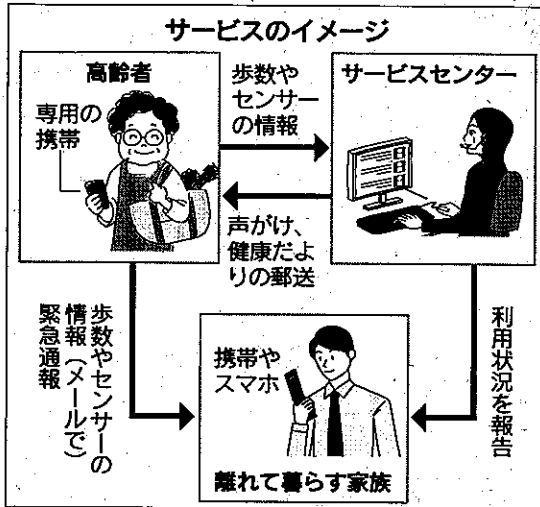
高齢者見守り 異常早く通報

システム開発のユーキャン(宇都宮市、山田義治社長)は歩数計機能付きの携帯電話を使った高齢者向けの見守りサービスを全国展開する。専用の簡易携帯を高齢者に持たせて歩数情報を離れて暮らす家族らに伝え、早期に高齢者の異常を察知することを狙う。専門の人員を配置し、歩数情報などを高齢者本人にも定期的に伝え、健康増進にもつなげる。

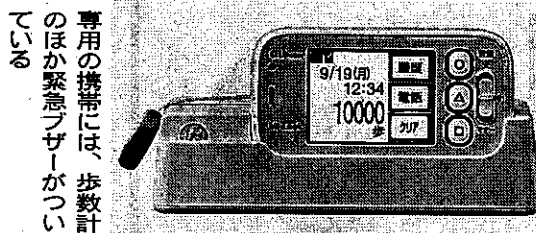
サービスの名称は「歩が見守り機能のついた携帯のみまもる」で、栃木県内で実証実験を開始した。4月から正式販売する予定だ。個人向けのほか、自治体や介護施設など大口の需要を想定している。

すでに、大手通信会社が見守り機能のついた携帯電話を使ったサービスを展開している。ユーキャンは人員を配置した専用のサービスセンターを設け、「電話対応など人的サポートを組み合わせることが特長」としており、差別化を狙う。

歩数計付き携帯使い



ユーキャン 専門人員を配置



専用の携帯には、歩数計のほか緊急プザーがついている

専用の携帯には歩数計や動きを感知するセンサーを付けた。「いつもより歩数が少ない」「センサーが感知しない」などの異常を察知すれば、センターが高齢者に安否確認の電話をする。緊急プザーも備え、いざという時に家族に緊急通報できる仕組みも取り入れた。全地球測位システム(GPS)により高齢者の位置情報もわかるようにした。

歩数情報をカレンダーに書き込み、月1回程度「健康だより」として、利用する高齢者に郵送する。目標の歩数を達成すればプレゼントなどを用意し、日常運動の動機づけとする。異常がなくても、センターから電話による声かけを定期的に実施する。

月額料金はサービス利用料と専用機器の貸出料金を含め4000円程度を予定している。このほかサービス加入時に初期費用が必要。北関東3県を中心に全国販売し、初年度に500件の利用を目指す。

ユーキャンは携帯電話の歩数計を使った見守りサービスの試験運用を栃木県那須烏山市で実施し

ミャンマー行き第1便 搭乗率63%とまり

茨城空港とミャンマーを結ぶチャーター便で、7日に茨城を出発する第1便の予約数は92人と搭乗率が63%にとどまることになった。橋本昌茨城県知事が4日の定例記者会見で明らかにした。

チャーター便は日本のツアー客向けで、7、11、15、19、23日の計5回運航される。仏教遺跡などを巡る3泊5日のツアーが企画されているが、20万円前後という料金の高さやミャンマーへのなじみの薄さなどが集客に影響しているようだ。

ここにきて複数の旅行会社が料金を9万9800〜11万9千円に抑えた格安ツアーを相次ぎ投入するなど利用者の掘り起こしを進めている。

農産物商談会 あす同時開催

埼玉県と埼玉りそな銀行は6日、農産物の展示商談会を開催する。県内の農業者や食品加工業者など、合わせて約170社・団体が出席する予定。首都圏の食品バイヤーらに県産農産物や県産食品を売り込み、県内農業を後押しする。

県が主催する「埼玉県

茨城空港発